

柏の景気情報（平成21年7月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年7月分）

○ 調査期間 : 平成21年7月17日 ~ 7月24日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	73	68.2%
建設	19	17	89.5%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	22	13	59.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年7月の調査結果のポイント】

《業況DIが5カ月ぶりに下降》

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲61.6(前月水準▲53.9)となり、マイナス幅が▲7.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲62.9(同▲64.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲62.5(同▲47.0)、サービス業▲53.8(同▲38.4)、建設業▲64.7(同▲53.3)である。

【建設業】では、「地場産業への発注が少なく、大手指向がますます増大している」(一般土木建築工事業)、「他社と競争していくため少しでも安い見積もりになり、利益が少なくなっています。売り上げ確保のため、試行錯誤していますが、忙しいばかりでなかなか反映しないのが現状です」(管工事業)、「工事等の動きは出てきたが、価格は低水準。品質安全対策を低下させない努力が必要」(電気工事業)など受注に関連するコメントが寄せられた。

【製造業】では、「需要低迷が続いている」(紙製容器製造業)、「コスト要求が厳しい状況での発注になってきており、生き延びるためのぎりぎりの状態が続いている声も多く聞こえる。多くの関係業者が雇用調整助成金を利用している」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「採算性の悪化から臨時雇用の削減、業務委託の削減に取り組まざるを得ない状況です」(百貨店)、「大型店の進出に伴う競争やインフレーションの動向にも対策を図り、食の安心安全をもって魅力ある市場流通を広めたい」(食料・飲料卸売業)、「7月度近隣ショッピングセンターのセールが1日だったことから月初から客数・売り上げ共に低調な推移となった。中旬からのセールは割引率が高かったことや、買い上げ点数の減少から客単価が減少し苦戦した。また、アウトレットのオープンからも週末の入店客数の落ち込みが大きかった。夏休みの集客を利用し売り上げの底上げを図っていく」(各種商品小売業)、「近隣のショッピングセンターでは増床したにもかかわらずテナントの閉店が目立つ」(書籍・文房具小売業)など、多岐にわたるコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊宴会ともに減。企業利用の減少が大きな原因。個人利用は横ばい。特需なし」(ホテル)とコメントがあった。

◎個人消費低迷

多くの業種から、「消費が安いものばかりに目が行っていて、まさに不景気を象徴していると思います。祭日の日にちを変更して連休にしたり、高速道路の料金を1000円にしたり、切り詰めるのは飲食費しかないので当然食品関係は不景気になります」(食料・飲料卸売業)、「賞与残業手当の減少等、家計の収入減からか、個人消費は極めて防衛的です。当店でもレジ客数は前年より上回ながら、単価は大きく前年を下回る傾向が続いています」(百貨店)、「夏季に入り、野菜の卸価格は安値に動いている。旬のものは入荷減安値傾向で、長引いている消費不振の低迷が影響しています。果実においても嗜好品の意識が強いせいか、入荷減で厳しい取引が続いています」(食料・飲料卸売業)、「梅雨明け宣言は出たものの、天候不順とバーゲン待ちの買い控えが重なり、衣料品を中心に売上減である」(その他の各種商品小売業)など、声が多く上がっていた。

◎その他のキーワード

各業種から、「改善の兆しが見られない」(一般土木建築工事業)、「昇降機法令の改正が近づき、先行き不透明感がある」(一般産業用機械設備製造業)等、先行き不透明に関するコメント、「プレミアム商品券の利用も多いが、プラスアルファにはなっていない。特に食料品の買い物に利用されている」(その他の各種商品小売業)、「共通商品券で毎月のガス料金の支払いに充てている家庭が多く、その他の消費意欲はない。従って売上はあがらない。すぐに現金化されないこともあり、サービスの一環とは思いながらも、納得できない部分がある」(燃料小売業)等の共通商品券に関するコメントもあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
見通し	▲36.9	▲35.2	▲18.7	▲44.4	▲46.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲61.6(前月水準▲53.9)となり、マイナス幅が▲7.7ポイント拡大した。

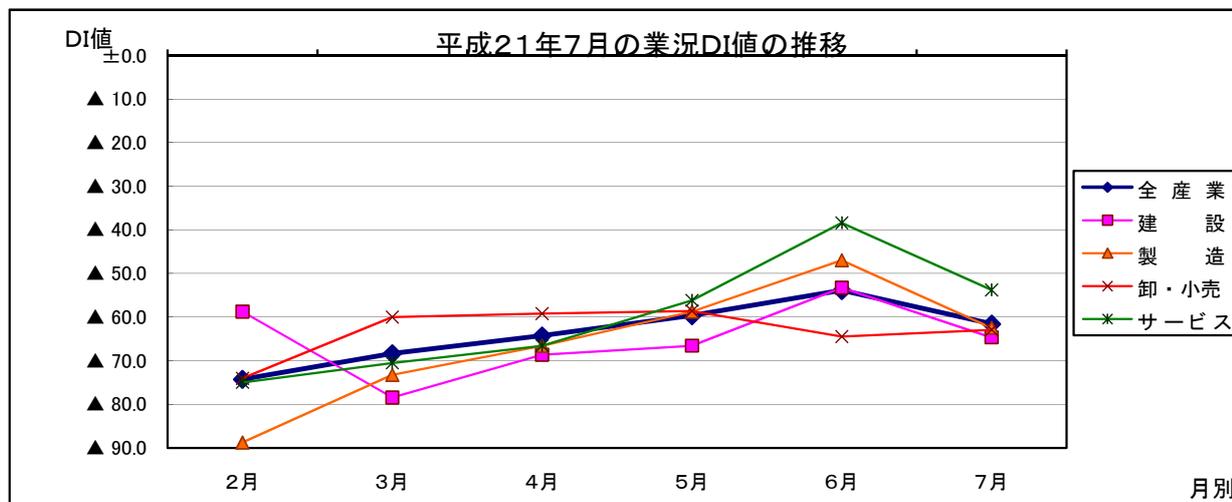
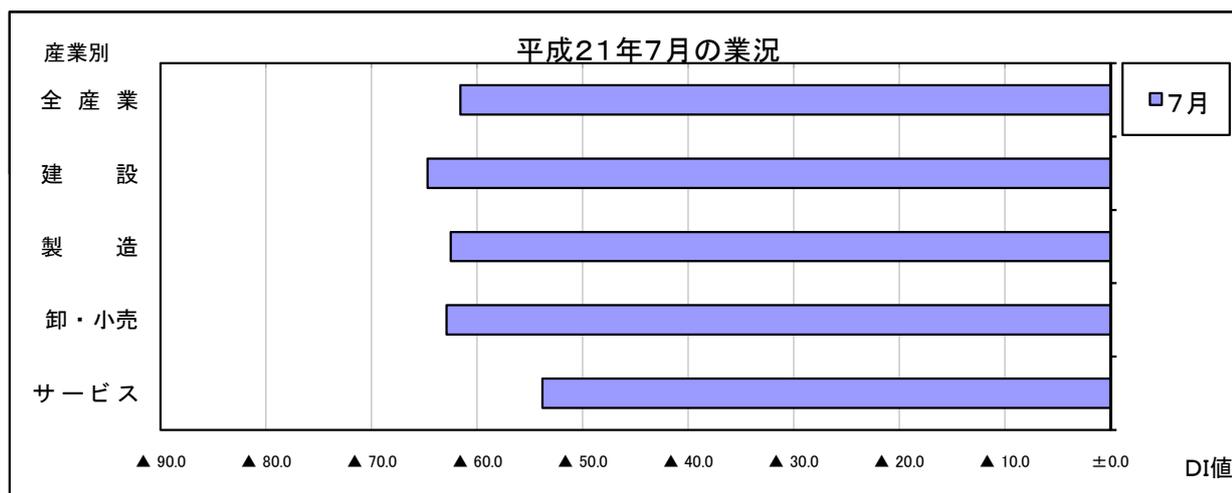
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲62.9(同▲64.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲62.5(同▲47.0)、サービス業▲53.8(同▲38.4)、建設業▲64.7(同▲53.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.9(前月水準▲38.1)となり、マイナス幅が△1.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲35.2)、建設業▲53.2(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.1(同▲30.7)、卸小売業▲44.4(同▲41.9)である。

平成21年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し	
	2月						8月~10月	7月~9月
全産業	▲74.3	▲68.4	▲64.3	▲59.7	▲53.9	▲61.6	▲36.9	(▲38.1)
建設	▲58.8	▲78.5	▲68.7	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲35.2	(▲40.0)
製造	▲88.8	▲73.3	▲66.6	▲58.8	▲47.0	▲62.5	▲18.7	(▲35.2)
卸・小売	▲74.1	▲60.0	▲59.2	▲58.6	▲64.5	▲62.9	▲44.4	(▲41.9)
サービス	▲75.0	▲70.5	▲66.6	▲56.2	▲38.4	▲53.8	▲46.1	(▲30.7)



【平成21年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.1(前月水準▲46.0)となり、マイナス幅が▲10.1ポイント拡大した。

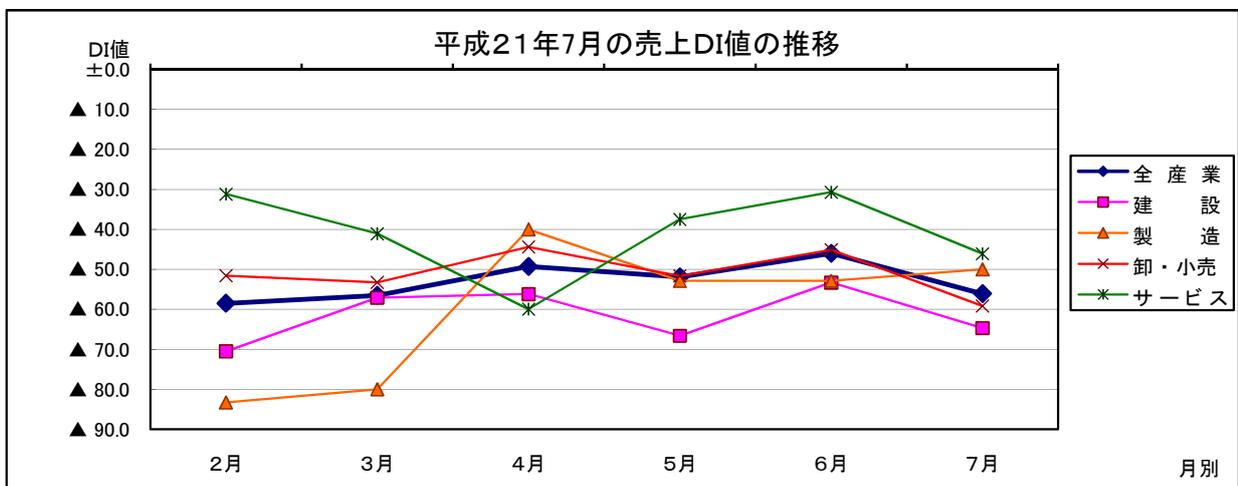
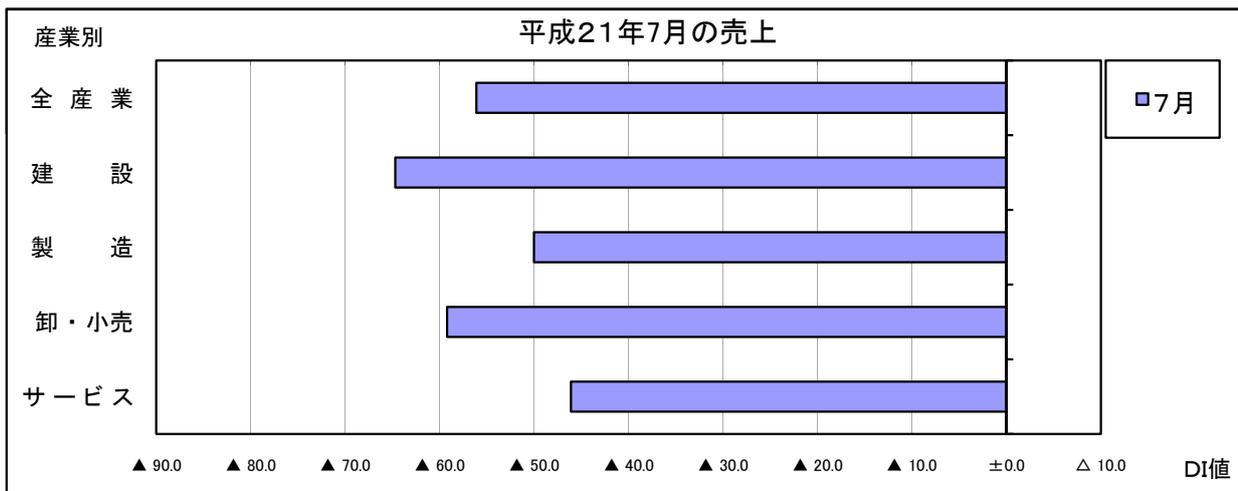
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲50.0(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.1(同▲30.7)、卸小売業▲59.2(同▲45.1)、建設業▲64.7(同▲53.3)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.0(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が△6.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.5(同▲53.3)、製造業▲31.2(同▲41.1)、卸小売業▲25.9(同▲29.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が△29.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲23.0(同▲7.6)である。

平成21年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲58.5	▲56.5	▲49.3	▲51.9	▲46.0	▲56.1	▲26.0(▲32.8)
建設	▲70.5	▲57.1	▲56.2	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲23.5(▲53.3)
製造	▲83.3	▲80.0	▲40.0	▲52.9	▲52.9	▲50.0	▲31.2(▲41.1)
卸・小売	▲51.6	▲53.3	▲44.4	▲51.7	▲45.1	▲59.2	▲25.9(▲29.0)
サービス	▲31.2	▲41.1	▲60.0	▲37.5	▲30.7	▲46.1	▲23.0(▲7.6)



【平成21年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲63.0(前月水準▲48.6)となり、マイナス幅が▲14.4ポイント拡大した。

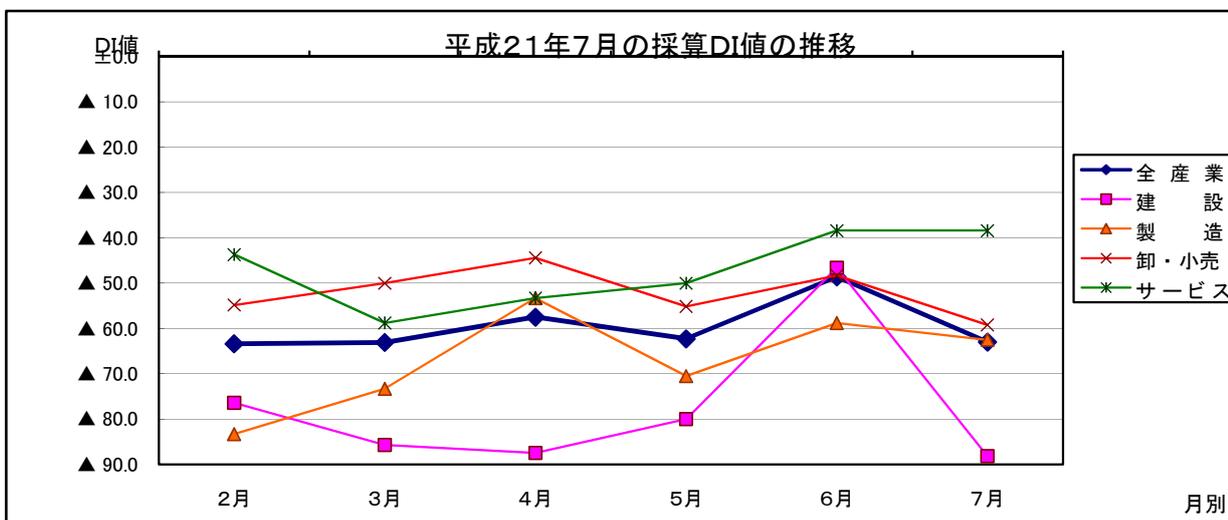
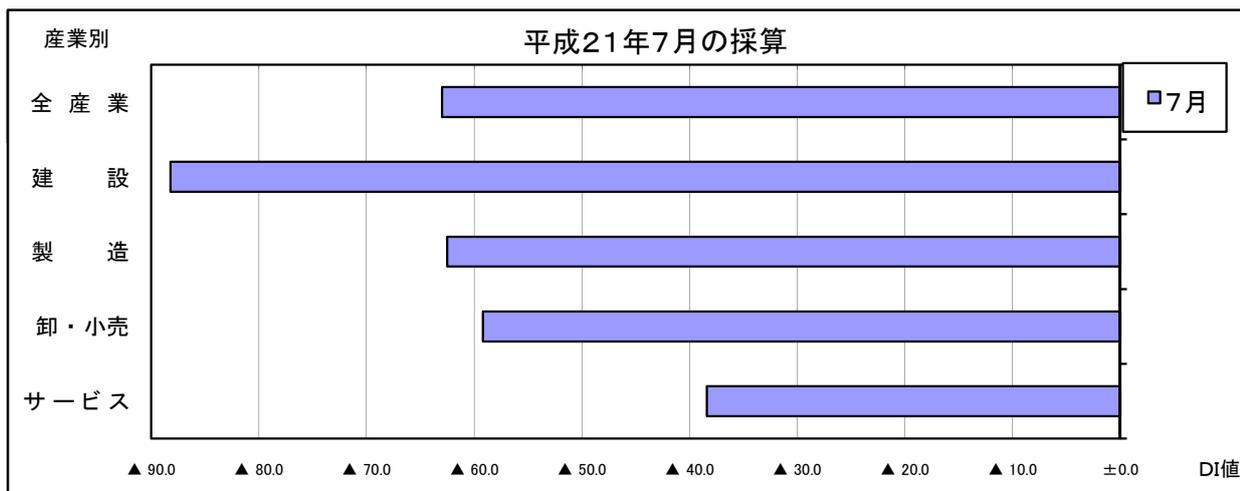
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業▲38.4(同▲38.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲88.2(同▲46.6)、卸小売業▲59.2(同▲48.3)、製造業▲62.5(同▲58.8)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲41.6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲41.0(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲6.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲31.2(同▲41.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同▲7.6)、建設業▲52.9(同▲40.0)、卸小売業▲48.1(同▲38.7)である。

平成21年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月～10月(7月～9月)
全産業	▲63.4	▲63.1	▲57.5	▲62.3	▲48.6	▲63.0	▲41.0(▲34.2)
建設	▲76.4	▲85.7	▲87.5	▲80.0	▲46.6	▲88.2	▲52.9(▲40.0)
製造	▲83.3	▲73.3	▲53.3	▲70.5	▲58.8	▲62.5	▲31.2(▲41.1)
卸・小売	▲54.8	▲50.0	▲44.4	▲55.1	▲48.3	▲59.2	▲48.1(▲38.7)
サービス	▲43.7	▲58.8	▲53.3	▲50.0	▲38.4	▲38.4	▲23.0(▲7.6)



【平成21年7月の仕入単価についての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.1(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が△2.4ポイント縮小した。

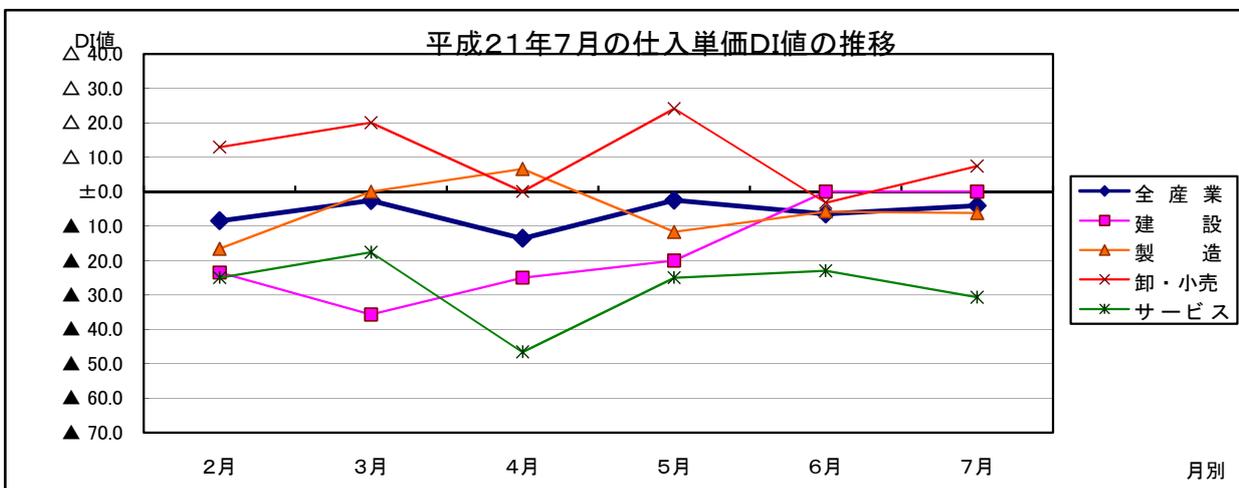
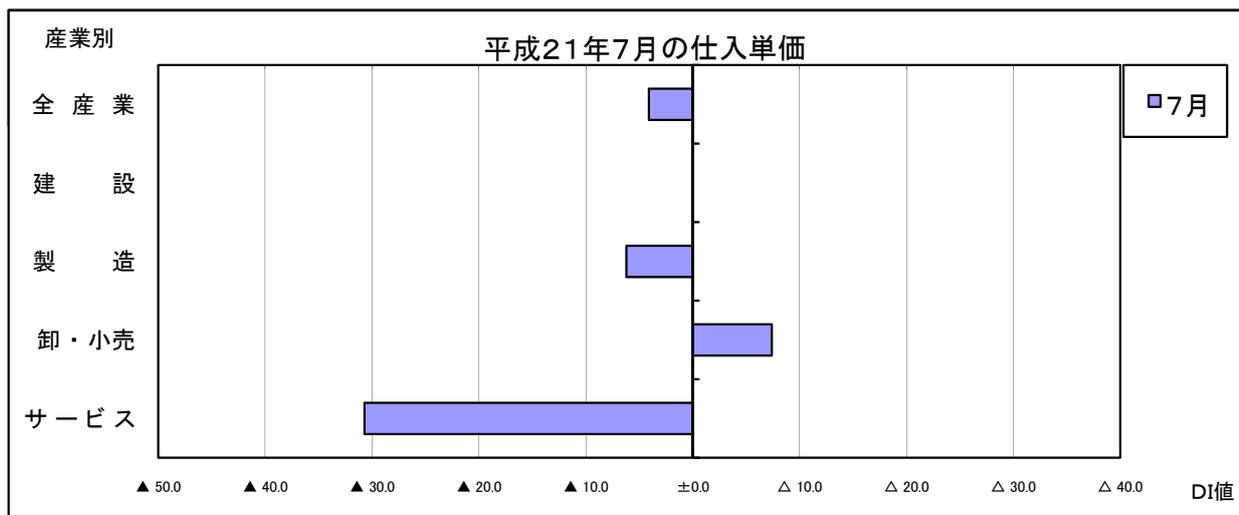
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△7.4(同▲3.2)である。変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲30.7(同▲23.0)、製造業▲6.2(同▲5.8)である。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.9(前月水準▲9.2)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲6.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲38.4(同▲23.0)、建設業▲11.7(同▲6.6)、製造業▲6.2(同▲5.8)である。

平成21年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲8.5	▲2.6	▲13.6	▲2.5	▲6.5	▲4.1	▲10.9(▲9.2)
建設	▲23.5	▲35.7	▲25.0	▲20.0	±0.0	±0.0	▲11.7(▲6.6)
製造	▲16.6	±0.0	△6.6	▲11.7	▲5.8	▲6.2	▲6.2(▲5.8)
卸・小売	△12.9	△20.0	±0.0	△24.1	▲3.2	△7.4	±0.0(▲6.4)
サービス	▲25.0	▲17.6	▲46.6	▲25.0	▲23.0	▲30.7	▲38.4(▲23.0)



【平成21年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.6(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が△2.1ポイント縮小した。

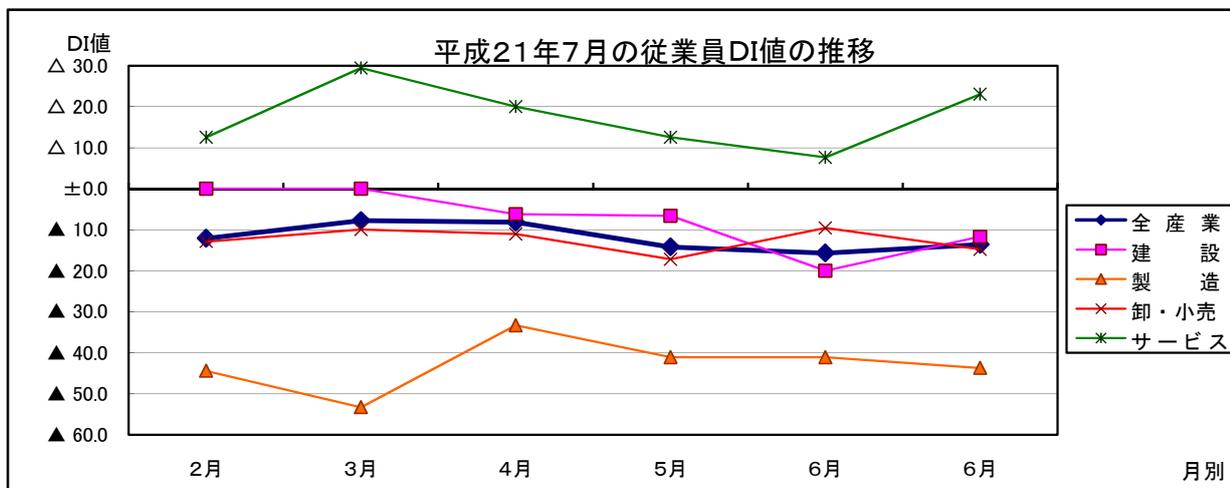
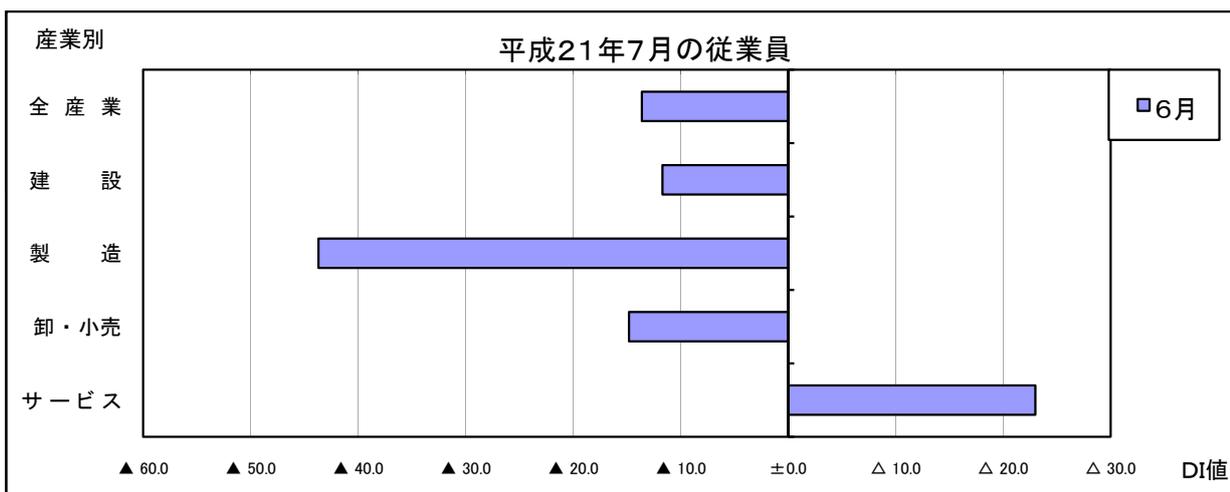
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△23.0(同△7.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲11.7(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲14.8(同▲9.6)、製造業▲43.7(同▲41.1)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.4(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△23.0(同△15.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲17.6(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲41.1)、卸小売業▲14.8(同▲9.6)である。

平成21年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 2月	3月	4月	5月	6月	6月	先行き見通し 7月~9月(7月~9月)
全産業	▲12.1	▲7.8	▲8.2	▲14.2	▲15.7	▲13.6	▲16.4(▲14.4)
建設	±0.0	±0.0	▲6.2	▲6.6	▲20.0	▲11.7	▲17.6(▲20.0)
製造	▲44.4	▲53.3	▲33.3	▲41.1	▲41.1	▲43.7	▲50.0(▲41.1)
卸・小売	▲12.9	▲10.0	▲11.1	▲17.2	▲9.6	▲14.8	▲14.8(▲9.6)
サービス	△12.5	△29.4	△20.0	△12.5	△7.6	△23.0	△23.0(△15.3)



【平成21年7月の資金繰りについての状況】

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.7(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が▲6.9ポイント拡大した。

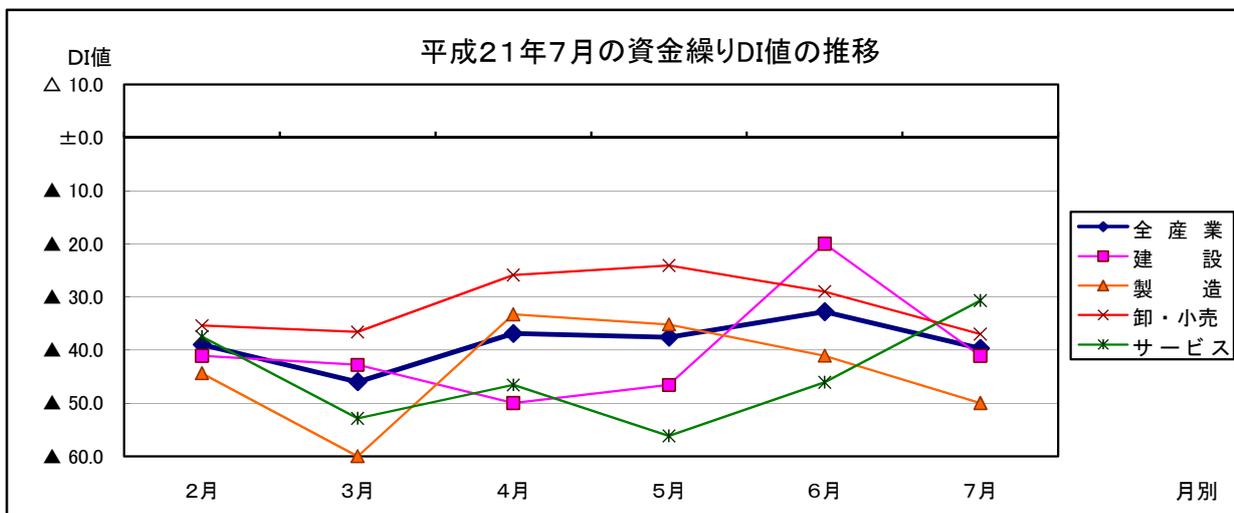
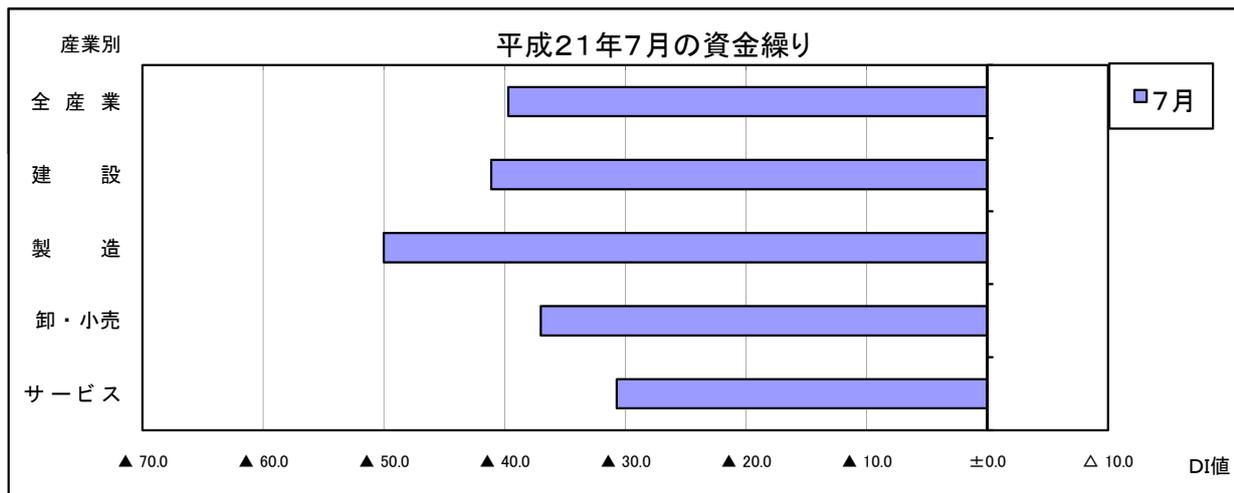
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲30.7(同▲46.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲41.1(同▲20.0)、製造業▲50.0(同▲41.1)、卸小売業▲37.0(同▲29.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲21.1ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.7(前月水準▲27.6)となり、マイナス幅が▲1.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲35.2)、卸小売業▲22.2(同▲25.8)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲30.7(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲35.2(同▲20.0)である。

平成21年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲39.0	▲46.0	▲36.9	▲37.6	▲32.8	▲39.7	▲28.7(▲27.6)
建設	▲41.1	▲42.8	▲50.0	▲46.6	▲20.0	▲41.1	▲35.2(▲20.0)
製造	▲44.4	▲60.0	▲33.3	▲35.2	▲41.1	▲50.0	▲31.2(▲35.2)
卸・小売	▲35.4	▲36.6	▲25.9	▲24.1	▲29.0	▲37.0	▲22.2(▲25.8)
サービス	▲37.5	▲52.9	▲46.6	▲56.2	▲46.1	▲30.7	▲30.7(▲30.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 56.1	▲ 26.0	▲ 63.0	▲ 41.0	▲ 4.1	▲ 10.9	▲ 13.6	▲ 16.4
建設	▲ 64.7	▲ 23.5	▲ 88.2	▲ 52.9	±0.0	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 17.6
製造	▲ 50.0	▲ 31.2	▲ 62.5	▲ 31.2	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 43.7	▲ 50.0
卸・小売	▲ 59.2	▲ 25.9	▲ 59.2	▲ 48.1	△ 7.4	±0.0	▲ 14.8	▲ 14.8
サービス	▲ 46.1	▲ 23.0	▲ 38.4	▲ 23.0	▲ 30.7	▲ 38.4	△ 23.0	△ 23.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 61.6	▲ 36.9	▲ 39.7	▲ 28.7
建設	▲ 64.7	▲ 35.2	▲ 41.1	▲ 35.2
製造	▲ 62.5	▲ 18.7	▲ 50.0	▲ 31.2
卸・小売	▲ 62.9	▲ 44.4	▲ 37.0	▲ 22.2
サービス	▲ 53.8	▲ 46.1	▲ 30.7	▲ 30.7

【平成21年7月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	地場産業への発注が少なく、大手指向がますます増大している。	・受注減少 ・大手志向	一般土木建築工事業
	改善の兆しが見られない	・先行き不透明	一般土木建築工事業
	他社と競争していくため少しでも安い見積りになり、利益が少なくなっています。売り上げ確保のため、試行錯誤していますが、忙しいばかりでなかなか反映しないのが現状です。	・価格競争 ・利益減少	管工事業(さく井を除く)
	工事等の動きは出てきたが、価格は低水準。品質安全対策を低下させない努力が必要。	・発注価格低水準 ・品質安全対策	電気工事業
工業	需要低迷が続いている	・需要低迷	紙製容器製造業
	昇降機法令の改正が近づき、先行き不透明感がある	・昇降機法令 ・先行き不透明	一般産業用機械設備製造業
卸小売	全体的に業界の冷え込みが見られる。増産のための設備投資も聞こえてこない。コスト要求が厳しい状況での発注になってきており、生き延びるためのぎりぎりの状態が続いている声も多く聞かれる。多くの関係業者が雇用調整助成金を利用している。	・業界冷え込み ・設備投資不振 ・厳しい業況 ・雇用調整助成金	その他の機械・同部分品製造業
	消費が安いものばかりに目が行っていて、まさに不景気を象徴していると思います。祭日の日にちを変更して連休にしたり、高速道路の料金を1000円にしたり、切り詰めるのは飲食費しかないのだから当然食品関係は不景気になります。	・低価格志向 ・飲食費節約 ・業界冷え込み	食料・飲料卸売業
	賞与残業手当の減少等、家計の収入減からか、個人消費は極めて防衛的です。当店でもレジ客数は前年より上回ながら、単価は大きく前年を下回る傾向が続いています。採算性の悪化から臨時雇用の削減、業務委託の削減に取り組みざるを得ない状況です。	・所得減少 ・個人消費低迷 ・客単価減少 ・採算悪化	百貨店
	プレミアム商品券の利用も多いが、プラスアルファにはなっていない。特に食料品の買い物に利用されている。	・共通商品券	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	夏季に入り、野菜の卸価格は安値に動いている。旬のものは入荷減安値傾向で、長引いている消費不振の低迷が影響しています。果実においても嗜好品の意識が強いせいか、入荷減で厳しい取引が続いています。また、大型店の進出に伴う競争やインフルエンザの動向にも対策を図り、食の安心安全をもって魅力ある市場流通を広めたい。	・青果入荷減安値傾向 ・個人消費低迷 ・食の安全 ・市場流通の拡大	食料・飲料卸売業
	共通商品券で毎月のガス料金の支払いに充てている家庭が多く、その他の消費意欲はない。従って売上はあがらない。すぐに現金化されないこともあり、サービスの一環とは思いますが、納得できない部分がある。5月で退職者が出たため経費減となり、その分資金繰りは少し楽になった。	・共通商品券 ・個人消費低迷 ・経費節減	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	梅雨明け宣言は出たものの、天候不順とバーゲン待ちの買い控えが重なり、衣料品を中心に売上減である。	・天候の影響 ・買い控え ・衣料品売上減	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	7月度近隣ショッピングセンターのセールが1日だったことから月初から客数・売り上げ共に低調な推移となった。中旬からのセールは割引率が高かったことや、買い上げ点数の減少から客単価が減少し苦戦した。また、アウトレットのオープンからも週末の入店客数の落ち込みが大きかった。夏休みの集客を利用し売り上げの底上げを図っていく。	・売上低調 ・客単価減少 ・夏休み商戦	各種商品小売業
	近隣のショッピングセンターでは増床したにもかかわらずテナントの閉店が目立つ。	・大型店増床 ・テナント閉店	書籍・文房具小売業
	サービス	宿泊宴会ともに減。企業利用の減少が大きな原因。個人利用は横ばい。特需なし。	・宿泊宴会減少 ・個人客数横ばい

◎個人消費低迷

- ・消費が安いものばかりに目が行っていて、まさに不景気を象徴していると思います。祭日の日にちを変更して連休にしたり、高速道路の料金を1000円にしたり、切り詰めるのは飲食費しかないので当然食品関係は不景気になります。食料・飲料卸売業
- ・賞与残業手当の減少等、家計の収入減からか、個人消費は極めて防衛的です。当店でもレジ客数は前年より上回ながら、単価は大きく前年を下回る傾向が続いています。百貨店
- ・夏季に入り、野菜の卸価格は安値に動いている。旬のものは入荷減安値傾向で、長引いている消費不振の低迷が影響しています。果実においても嗜好品的意識が強いせいか、入荷減で厳しい取引が続いています。食料・飲料卸売業
- ・共通商品券で毎月のガス料金の支払いに充てている家庭が多く、その他の消費意欲はない。従って売上はあがらない。燃料小売業
- ・梅雨明け宣言は出たものの、天候不順とバーゲン待ちの買い控えが重なり、衣料品を中心に売上減である。その他の各種商品小売業

◎その他のキーワード

- ・改善の兆しが見られない(先行き不透明) 一般土木建築工事業
- ・昇降機法令の改正が近づき、先行き不透明感がある(先行き不透明) 一般産業用機械設備製造業
- ・プレミアム商品券の利用も多いが、プラスアルファにはなっていない。特に食料品の買い物に利用されている(共通商品券) その他の各種商品小売業
- ・共通商品券で毎月のガス料金の支払いに充てている家庭が多く、その他の消費意欲はない。従って売上はあがらない。すぐに現金化されないこともあり、サービスの一環とは思いながらも、納得できない部分がある(共通商品) 燃料小売業

平成21年7月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲61.6に対し、「CCI-LOBO」が▲63.6で、柏の方がマイナス幅が2.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲56.1に対し、「CCI-LOBO」が▲61.6で、柏の方がマイナス幅が5.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲63.0に対し、「CCI-LOBO」が▲60.8で、柏の方がマイナス幅が2.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業で10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.1に対し、「CCI-LOBO」が▲9.5で、柏の方がマイナス幅が5.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、卸小売業であり、建設業・卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業で10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.1で、柏の方がマイナス幅が7.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.7に対し、「CCI-LOBO」が▲44.7で、柏の方がマイナス幅が5.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよくなっており、サービス業は10ポイント以上良い。

平成21年7月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 61.6	 64.7	 62.5	 62.9	 53.8
CCI LOBO	 63.6	 61.2	 65.7	 65.1	 60.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 56.1	 64.7	 50.0	 59.2	 46.1
CCI LOBO	 61.6	 54.2	 65.0	 66.7	 57.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 63.0	 88.2	 62.5	 59.2	 38.4
CCI LOBO	 60.8	 61.1	 65.8	 62.0	 55.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.1	 ±0.0	 6.2	 7.4	 30.7
CCI LOBO	 9.5	 15.9	 9.1	 7.6	 13.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.6	 11.7	 43.7	 14.8	 23.0
CCI LOBO	 21.1	 37.4	 32.3	 10.5	 11.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 39.7	 41.1	 50.0	 37.0	 30.7
CCI LOBO	 44.7	 47.9	 53.3	 38.0	 43.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(7月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年6月17日～24日

調査対象：柏市内 107 事業所及び組合に
ヒアリング、回答数 73

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
見通し	▲36.9	▲35.2	▲18.7	▲44.4	▲46.1

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

7月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、61.6(前月水準 53.9)となり、マイナス幅が7.7ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業 62.9(同 64.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業 62.5(同 47.0)、サービス業 53.8(同 38.4)、建設業 64.7(同 53.3)である。

【建設業】では、「地場産業への発注が少なく、大手指向がますます増大している」「(一般土木建築工事業)」「他社と競争していくため少しでも安い見積もりになり、利益が少なくなっています。売り上げ確保のため、試行錯誤していますが、忙しいばかりでなかなか反映しないのが現状です」「(管事業)」「工事等の動きは出てきたが、価格は低水準。品質安全対策を低下させない努力が必要」「(電気工事業)など受注に関連するコメントが寄せられた。

【製造業】では、「需要低迷が続いている」「(紙製容器製造業)」「コスト要求が厳しい状況での発注になってきており、生き延びるためのぎりぎりの状態が続いている声も多く聞かえる。多くの関係業者が雇用調整助成金を利用して」「(その他の機械・同部品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、採算性の悪化から臨時雇用の削減、業務委託の削減に取り組みざるを得ない状況です」「(百貨店)」「大型店の進出に伴う競争やインフルエンザの動向にも対策を図り、食の安心安全をもつて魅力ある市場流通を広めたい」「(食料・飲料卸売業)」「7月度近隣ショッピングセンターのセールが1日だったことから

月初から客数・売り上げ共に低調な推移となった。中旬からのセールは割引率が高かったことや、買い上げ点数の減少から客単価が減少し苦戦した。また、アウトレットのオープンからも週末の入店客数の落ち込みが大きかった。夏休みの集客を利用し売り上げの底上げを図っていく」「(各種商品小売業)」「近隣のショッピングセンターでは増床したにもかかわらずテナントの閉店が目立つ」「(書籍・文房具小売業)など、多岐にわたるコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊宴会ともに減。企業利用の減少が大きな原因。個人利用は横ばい。特需なし」「(ホテル)とコメントがあった。

7月の景気キーワード

個人消費低迷

多くの業種から、「消費が安いものばかりに目が行っていて、まさに不景気を象徴している」と思っています。祭日の日にちを變更して連休にしたり、高速道路の料金を千円にしたり、切り詰めるのは飲食費しかないのが当然食品関係は不景気になります」「(食料・飲料卸売業)」「賞与・残業手当の減少等、家計の収入減からか、個人消費は極めて防衛的です。当店でモレジ客

は大きく前年を下回る傾向が続いています」「(百貨店)」「夏季に入り、野菜の卸価格は安値に動いている。旬のものは入荷減安値傾向で、長引いている消費不振の低迷が影響しています。果実においても嗜好品の意識が強いせいかわ、入荷減で厳しい取引が続いています」「(食料・飲料卸売業)」「梅雨明け宣言は出たものの、天候不順とバーゲン待ちの買い控えが重なり、衣料品を中心に売上減である」「その他の各種商品小売業)など、声が多く上がっていた。

その他のキーワード

各業種から、「改善の兆しが見られない」「一般土木建築工事業)」「昇降機法令の改正が近づき、先行き不透明感がある」「(一般産業用機械設備製造業)等、先行き不透明に関するコメント、プレミアム商品券の利用も多いが、プラスチックにはなっていない。特に食品の買物に利用されている」「その他の各種商品小売業)」「共通商品券で毎月のがス料金の支払いに充てている家庭が多く、その他の消費意欲はない。従って売上はあがらない。すぐに現金化されないこともあり、サービスの一環とは思いますが、納得できない部分がある」「燃料小売業)等の共通商品券に関するコメントもあった。

CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気が61.6に対し、CCI LOBO」が63.6で、柏の方がマイナス幅が2.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業

C C I - L O B O

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：平成21年7月17日～24日

調査対象：全国の407商工会議所が2588業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、マイナス幅が5か月連続で縮小

7月の業況を見ると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース以下同じ)は、63.6と前月に比べ+0.6ポイントとなり5か月連続でマイナス幅が縮小した。ただ、マイナス幅の縮小ペースは「層純化している。業況は一旦底を打ったとみられるが、水準は依然として厳しく、楽観を許さない状況となっている。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、製造業で縮小し、他の3業種で拡大した。

景況に関する声、当面する問題としては、各地からは「公共工事については、国(地方同)や地方自治体により進捗程度が異なり、下請けの多い中小・零細企業への波及が十分に進んでいない」との声、採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下を訴える声、ポナナス減少、在庫品一掃大売り出しの不振等個人消費の減退について訴える声が多く寄せられた。一方、公共工事の前倒しや、環境対応車、エコポイント制度などで中小企業への今後の波及効果を期待する声がある一方で、景気を押し上げるには力不足との声もあった。雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要の低迷等により、景気の底割れや長期停滞を懸念する声が依然として強い。

【建設業】「大型物件の発注はあるが予算は依然厳しい」「(一般事業)」「公共工事の前倒し効果が見られはじめた(土木事業)」「受注は増えたが利益が出ない(建築事業)」「工事価格が低下傾向。全般的に仕事量が少なく売上も低下」「(一般事業)」「受注できるのは低価格工事のみ(建築事業)」「民間工事の発注量が少なく大変厳しい」「とにかく仕事がない(土木事業)」

【製造業】「自動車製造業において若干残業時間が増加(建設機械・鉱山機械製造業)」「低水準ながら回復の兆しがある(耐火物製造業)」「前年同期比までは回復していないが受注量は増加(夏場の仕事は確保(農薬用機械製造業)」「売上は前年割れの状態であるが、受注、雇用は一部改善している(電器部品製造業)」「資金が底を尽きかけている(他電機機械製造業)」「業界として不況対策、事業発注に関する要請書を提出した(一般作用用機械製造業)」「利益の出ない仕事をしている企業が多い(自動車・同附属品製造業)」

【卸売業】「お中元商戦による売上増を期待」「一時期に比べ売上は下げ止まっている(土産)」「農産物産物卸売業」「営業範囲を拡大し売上増(食料・飲料卸売業)」「燃料価格が上昇傾向にあり物流経費の増加を懸念(繊維品卸売業)」「百貨店、スーパーなどで小売業の売上不振が続く厳しい状況(家具・建具等卸売業)」「下げ止まり傾向ではあるが状況は依然厳しい。雇用調整助成金でなんとかしのいでいる状態(鉱物金属材料卸売業)」

【小売業】「経費削減効果で採算は好転」「閉店売り尽くしセールを実施し売上は前年同期比30%増の予定(土産)」「百貨店」「定期給付金の効果で人通りが増加、来客数も下げ止まった。個人消費は増えきている(その他小売業)」「相変わらず消費者の財布のひもは固く、売上回復は近況見込みない(百貨店)」「前倒し実施したポナナス商戦が苦戦している(その他小売業)」「景気の先行き不安から買い控えがある(商店街)」

【サービス業】「夏季観光シーズンの影響もあり若干改善の兆しがみられる(食堂・レストラン)」「夏場の来客数増を期待(飲食サービス業)」「週末を中心に祭りやお盆、海水浴などを目的とした予約が順調(旅館)」「小規模飲食店の廃業が続いている(食堂・レストラン)」「コンビニエンスストアの弁当などの安売りの影響を懸念(他の一般飲食店)」「新型インフルエンザの影響を引きずり例年の水準には達していない(旅館)」「タクシー業界は売上が悪化している(他事業サービス業)」

【卸売業】「お中元商戦による売上増を期待」「一時期に比べ売上は下げ止まっている(土産)」「農産物産物卸売業」「営業範囲を拡大し売上増(食料・飲料卸売業)」「燃料価格が上昇傾向にあり物流経費の増加を懸念(繊維品卸売業)」「百貨店、スーパーなどで小売業の売上不振が続く厳しい状況(家具・建具等卸売業)」「下げ止まり傾向ではあるが状況は依然厳しい。雇用調整助成金でなんとかしのいでいる状態(鉱物金属材料卸売業)」

七月のキーワード

雇用情勢のさらなる悪化

依然低調な受注、売上が悪化悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が多く寄せられている。製造業からは「教育訓練給付金を利用してはいる企業が多くなっている(西尾)」「鉄骨形材製造業」「人員整理を本格的に検討(三島)」「建設・鉱山機械製造業」「雇用調整助成金に係る教育訓練を月々回行っ

ている(西尾)」「全層加工機械製造業」「従業員の一時帰休等を実施する事業所や雇用調整助成金制度等を利用してはいる事業所も多い(館山)」「全層加工機械製造業」「サービス業からは「例年になく厳しい業況。閉店、人員整理する店舗が多い(野田)」「派遣先の経営難により派遣社員の契約期間満了での打ち切りの申し出があった(名古屋)」「他事業サービス業」などの声が多く寄せられている。

経済対策に対する期待感

公共工事、環境対応車、エコポイント制度など政府が打ち出している大型経済対策による景気持ち直しへの期待感が寄せられている。建設業からは「公共工事の前倒し発注に期待(長崎)」「一般事業(補正予算の速やかな執行を期待(熊本)」「建築事業(公立小中学校の太陽光発電設備の設置計画に期待(北九州)」「電気事業(製造業からは「環境対応車関係の売上好調(豊橋)」「自動車・同附属品製造業(小売業からは「エコポイント制度は消費拡大に向けて明るい材料(盛岡)」「百貨店」「プレミアム付商品券の利用枚数が予想を上回った(豊橋)」「商店街)」「サービス業からは「高速道路料金値下げの効果があった(土佐清水)」「食堂・レストラン」などの声が多く寄せられた。

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下、ポナナス減少、在庫品一掃大売り出しの不振等個人消費の減退について訴える声が多く寄せ

られた。建設業からは「公共工事の受注競争が激しく低価格入札が増えている(長岡)」「一般事業(受注は低価格の工事のみになっている(鎌倉)」「建築事業(製造業からは「需要の減少や競争激化により販売価格が下落している(名古屋)」「電子部品製造業(小売業からは「消費意欲、低価格でも必要ないものは買わないという傾向が強くなっている(藤)」「百貨店)」「ポナナス減少の影響で消費が冷え込んでいる。客数は維持しているが、客単価が下がっている(藤枝)」「百貨店)」「一時下げ止まったが、売上は減少傾向(豊橋)」「商店街)」「サービス業からは「売上は下げ止まり感がない(上田)」「他の一般飲食店」といった声が多く寄せられた。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲73.4	▲75.8	▲75.6	▲71.1	▲71.5	▲72.6
3月	▲72.8	▲72.1	▲73.5	▲70.5	▲75.5	▲70.2
4月	▲70.4	▲70.9	▲74.4	▲66.7	▲70.9	▲66.9
5月	▲65.7	▲71.6	▲69.1	▲66.2	▲66.2	▲57.7
6月	▲64.2	▲66.7	▲70.6	▲61.8	▲63.4	▲57.3
7月	▲63.6	▲61.2	▲65.7	▲65.5	▲65.1	▲60.3
見通し	▲48.4	▲50.0	▲44.0	▲48.9	▲54.5	▲44.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI